

1 a 単
b 公約
c 想定

2 I i 探究は真正
ii 探究の時間 II 自分た

3 政治にゝること
4 A エ B ア C ウ

5 I 知識の全体 II 学ぶ意欲
6 イ 7 (記述題)

2 a 検証
b 正当性
c 口角

2 東京帝ゝリート
3 消し去りたい

4 I イ II ア III エ
(完答) 5 A 負 B ま C 皮 D ふ 6 (記述題)

7 ウ 8 自己 9 人生の目的 10 (記述題) 11 月

1 バラバラに学んだ後に総合される (同意可)

2 自分の持ちうる技術のすべてを投じてつくった飛行機のせいで大勢の若いパイロットを死に追いやってしまったということ。 (同意可)

10 同じ意志を持った聡一に勇気づけられ、うれしかったから。 (同意可)

	「配点」	
その他	11 7 1	14 4
	22 6 1	26 10 5
	各2点×13	各6点×3
	各4点×14	各6点×3
	56点	18点
		26点

- 1 a 「単」のはじめの三画はカタカナの「ツ」と同じ筆順である。b 「公約」は公衆こうしゅうに対して政策などを約束すること。c 「想定」はある条件や状況じょうきょうなどを仮に考えてみることに。「ソウ」も「テイ」も同音異字どうおんいじが多いので、文脈から正確に判断しよう。
- 2 I 本文を通読する際に——線①を読んだ時点で「ここよりあとには探究の授業に求められている特徴が二つ述べられているはずだから、それらをさがしながら読もう」と考えられただろうか。次の行に「第一に…」とあり、読み進めていくと「もうひとつは…」とある。この並列へいれいをあらわす表現を通読時におさえておこう。
- II 「二つの特徴」の両方が求められる理由を問われていることをまずはおさえよう。「第一に…」から十行にわたる部分ではひとつめの特徴、「もうひとつは…」から七行にわたる部分ではふたつめの特徴が述べられており、「探究の時間は…」という段落で探究の授業についてまとめられているという構造である。よって、このまとめられている段落からさがせばいい。
- 3 設問に「『選挙制度を学ぶ』という例でいうと」とあるので、——線②を含む文の直後の「たとえば、『選挙制度を学ぶ』といった場合…」からはじまる部分から読み進めていけばいいということになる。「選挙制度を学ぶ目的は…」とはっきり述べられている。
- 4 【A】の前には「学習者にできるだけ多くのことが任せられるような共同学習が必要」である理由が述べられているので、【A】には因果関係いんぐわんかんけいを結ぶはたらきを持つ「よって」がはいる。【B】の後では「科学の専門化」の持つ問題点が述べられているので、ここには追加くわのはたらきを持つ「さらに」がはいる。【C】の前では「専門家が自分の分野を発展させようとする」というプラス面が述べられており、あとでは「自分たちの分野だけの発展を望めば、社会に大きなアンバランスが生まれてしまう」というマイナス面が述べられているので、【C】には逆接さかのはたらきを持つ「しかし」がはいる。
- 5 I ——線③が問いかける文なので、本文を通読する際に答えをさがしながら読むべきである。そういった読み方ができている者は「探究型の学習を高校ではもちろん、小中学校でも実施すべきなのは…からです」という一文にも気づけるだろう。
- II 「全体が見失われる…」の段落に「教育を受ける児童・生徒の立場に立てば…その科目を学ぶ意欲が失われていっても不思議ではありません」とあり、ここよりあとの部分にも「受験に必要な知識だけを学んできた生徒が大学に入ってから学ぶ意欲を失う」ということが述べられていた。「全体が見失われる」↓「学ぶ意欲が失われる」ということは、「全体が見失われない」↓「学ぶ意欲を持てる」ということになる。
- 6 ④を含む文の直後の一文に「これは危険な断片化です」とあり、そのあとで「危険な断片化」の説明がなされているので、ここに注目して考える。「世界の一部の断片だけをよく知っていても、全体が見失われてしまう」と「他の分野がまったくわからなくなつて」しまうところがある。
- 7 ⑤の直後の「べきではなく、最初から全体のなかに位置づけられながら学ばれるべき」から、⑤には「あとで全体としてまとめる」といった内容がはいると考えられる。しかしそのみでは説明不足なので、これまでの科目・教科の学び方である「教科別に学ぶ」という内容も含めてうまく説明しよう。
- ②
- 1 a 「検証」は実際に調べて証明することであるが、ここでは、正しかったかどうか考えることといった意味合いだろう。b 「正當性」は社会通念上正しく道理にかなっていると認められる状態にあること。c 「口角」は口の両わき。
- 2 「声をかけるのはばかられるような相手」、次の行の「近寄りたばかりだった木崎」という表現から、聡一にとっては手の届かない存在であったことが読み取れる。
- 3 「零戦」ということばを聞いた途端とたんに笑みが消えたのだから、木崎にとってそれがマイナスのものだということになる。それをふまえて読み進めたい。
- 4 【I】〜【III】のどれもマイナスの心情の表出である。【II】は聡一自身はよくなかったと思っていることを木崎がよかったと言ったので、あとでもう一度「よかったですか」とたずねている。よって、【II】には「さがるような声」がふさわしいだろう。【I】は「しばらく黙ったのち」の発言であること、【III】の直前で「私のやったことが重大な結果（＝大勢のパイロットを死なせたこと）を生んでしまった」と発言していることから、【I】には「ひび割れたような声」、【III】には「氷のナイフのような鋭い声」がはいると考えられる。
- 5 それぞれ文脈に沿った表現にしなければならぬ。Aの「負い目」は気持ちに負担を感じることがら。Bの「まっとうする」は完全に果たすこと。Cの「皮肉」はここでは物事が予想や期待に反した結果になること。Dの「目をふせる」は相手から視線をそらし下を向くこと。
- 6 ——線③よりあとで木崎が「本当に情けなかった。こんなに大勢の人が死ぬのなら…」私が持ちうる技術のすべてを投じてつくった飛行機で、若いパイロットたちが死んでいった…」と聡一に打ち明けているのでここをうまくまとめたい。短絡的に「こんなに大勢の人が死ぬのなら、軍用機などつくらなければよかったということ。」としないこと。「くに対して情けないと思っている」にうまくあてはまるようにまとめなければならぬ。
- 7 ——線④の「だから」という表現から、ここまでで木崎自身が話した、戦争へ加担してしまったことへの後悔が「鉄道技術研究所へ来た」理由だとわかる。また、ここよりあとで「鉄道技術研究所」で何をしようとしているのかを木崎自身が説明しているのでここもふまえよう。
- 8 ⑤には聡一の長く苦しんでいたことがはいる。聡一の苦しみについては、「きみは戦争には？」と木崎に聞かれた場面ですべられていた。
- 9 「戦争で失った」ということは、「戦前もしくは戦時中には持っていた」ということである。聡一が「戦争で失われたものを取り返したい」と思って（鉄道技術）研究所に来ました」と言っていることから、「乗り物をつくる」という目的があつて来たということになる。
- 10 「笑った」理由を問われているので、心情を答えるに盛り込む必要がある。——線⑦の直後の「一緒に美しい列車をつくらう」という発言から、プラスの心情であることはわかるだろう。その心情になった事情も合わせてまとめよう。事情は直前の「手伝います」「平和を運ぶ乗り物をつくりたいです」「私も戦争で失われたものを取り返したい」と思って…」という聡一の発言だろう。
- 11 文学的文章では読み手に何かを印象づけようとして自然物を描写することが多い。本文中で月がくり返し描写されているが、本文の最後の一文で「月明かりに照らされていた」とあるが、読者にプラスのイメージを印象づけようとの作者の意図があつての描写である。